

八戸平和病院の具体的対応方針（その 2） ※「調整中」のため次回協議

八戸平和病院**役割・医療機能及び機能別病床数の考え方****【役割・医療機能】**

診療科の充実と専門性の進展、周辺地域の高齢者介護施設等の利用者の急変時の対応など、地域に根ざした病院として、急性期医療を継続していく。

【病床規模の最適化に係る検証】

現在、当院では病院の老朽化に伴い、建て替え、改築、病床数の見直しなど病院運営について検討しています。費用面や時期、病床規模など見込みが立っておらず、現時点でいつ頃何床減少するのか報告できる状況にありません。

医療連携の考え方**【基本方針】**

地域密着の身近な病院を目指し、開業の先生方との病診連携、当院の診療科の枠を超えた診療科やより高度な医療機能を有する病院との病病連携にも力を入れています。

【具体的な医療連携】

八戸市立市民病院、八戸赤十字病院より急性期～亜急性期、手術後のリハ目的などの患者の受入を中野眼科医院からは眼科疾患（小児眼科、白内障）患者の受入を継続していくほか、透析患者の通常・問題発生時の受入またCKD患者、股関節・膝関節疾患、泌尿器科疾患さらには複合的ニーズを有する高齢者患者の受入など率先して連携を進めていきたい。

当院入院中の患者に心疾患または脳血管疾患が発症した場合、八戸市立市民病院、青森労災病院、八戸赤十字病院へ紹介している。また、治療後のフォローの一環として退院先との連携にも継続して力を入れていきたい。